

**平所遺跡**（松江市矢田町）  
弥生時代後期末の玉作工房1棟が確認された。花仙山の石はまだあまり使われず、主として水晶製の玉が作られていた。このほか、玉に穴を開ける鉄製の錐も出土している。



**布田遺跡**（松江市竹矢町）  
弥生時代前期から中期の玉作遺跡で、遺構はないが、管玉の未成品や砥石・石錐が見つかった。



**西川津遺跡**（松江市西川津町）  
朝酌川の河川改修で見つかった、縄文時代から中世の大規模遺跡。玉作工房は見つからないが、弥生時代前期の土器とともに、玉の未成品が出ている。県内最古の玉作遺跡。

## 弥生時代の玉作



**四ツ廻り遺跡**（東出雲町揖屋）  
古墳時代の玉作跡、碧玉・めのう製の勾玉未成品や滑石製の小玉などが出土した。安来道路建設に伴う調査で見つかった。



**大角山遺跡**（松江市乃木福富町）  
県の消防学校建設に伴う事前調査で発見された、古墳時代中期の玉作遺跡。玉作工房は3棟見つかっており、おもにめのう製の勾玉を作っていた。

## 古墳時代の玉作

**福富遺跡**（松江市乃木福富町）  
花仙山の近くに位置する、古墳時代後期の玉作遺跡。碧玉製の勾玉・管玉の未成品などが出土している。



**勝負遺跡**（東出雲町揖屋）  
古墳時代中期の玉作遺跡。花仙山の碧玉を使って玉作を行っている。滑石製の小玉も見つかった。安来道路建設に伴う調査で発見された。

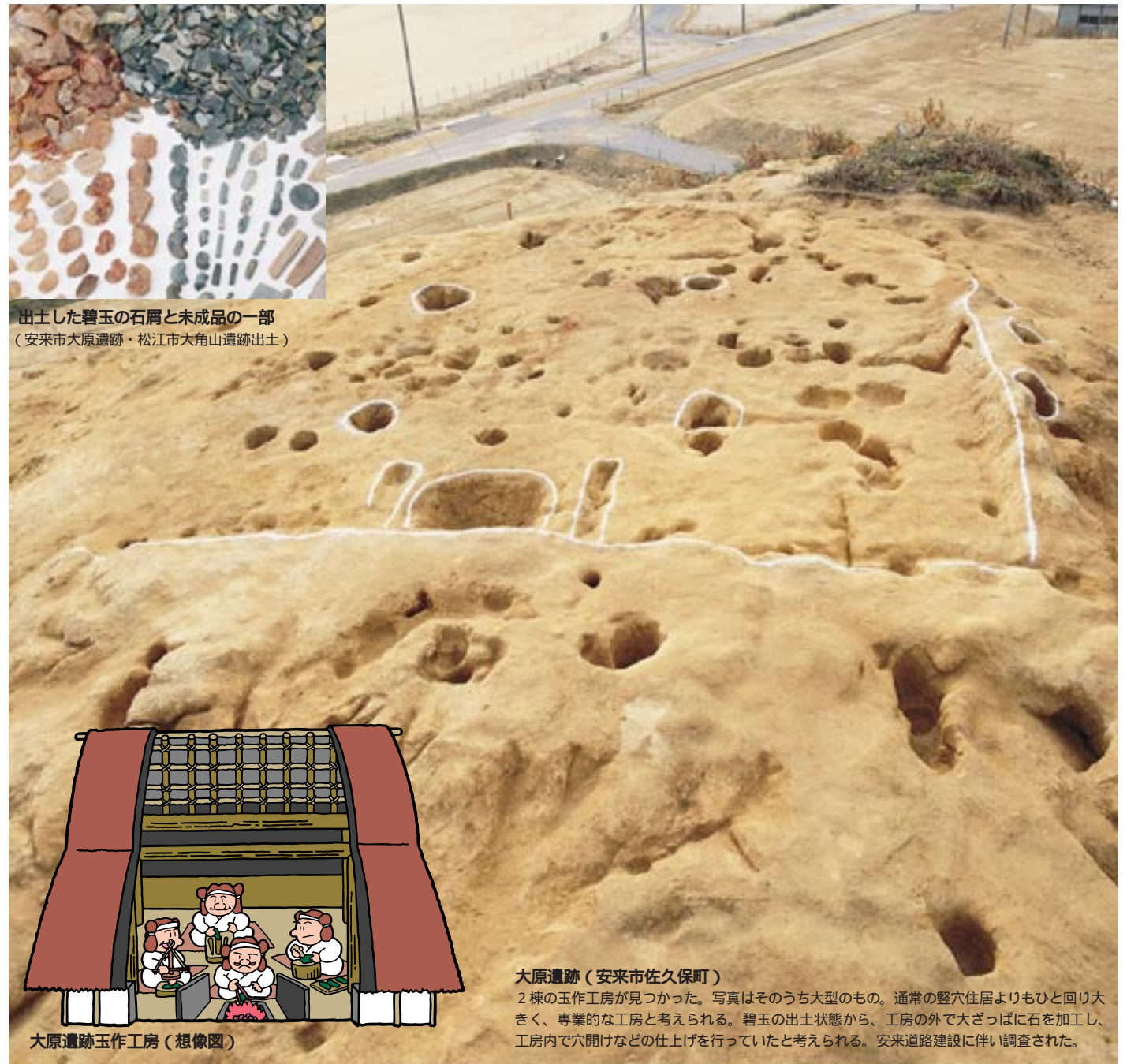


出雲の玉作遺跡の分布

代中期に、玉作遺跡の分布が突如として、花仙山以外の地域に広がったことが明らかになってきたのです。なぜ、このようなことが起きたのでしょうか。

現在、古墳時代の玉製品の大部分は、全国各地で作られて当時の中心地である近畿地方へ運ばれ、そこから各地の豪族へ与えられたとする説が有力です。出雲で作られた玉の多くも、近畿地方の大王へ献上するために作られていた可能性が高いわけですが、となると、この時代の玉作遺跡の広がりの背景には、畿内勢力と出雲の豪族たちとの関係に何らかの変化があったのかもしれない。事実この時代には、それまで方墳しかなかった出雲に、大形の円墳や前方後円墳が出現するなど、古墳のありかたが前の時代と大きく変わってきているのです。しかし、この変動が具体的にどのようなものであったのかは、まだ謎に包まれました。

大原遺跡の調査は玉作工房の実態を明らかにしただけでなく、古墳時代の出雲の様子の一端を垣間見せてくれました。残る多くの謎の解明をめざして、今日も県内各地で発掘調査は続けられています。



出土した碧玉の石屑と未成品の一部  
(安来市大原遺跡・松江市大角山遺跡出土)

大原遺跡玉作工房（想像図）

**大原遺跡**（安来市佐久保町）  
2棟の玉作工房が見つかった。写真はそのうち大型のもの。通常の竪穴住居よりもひと回り大きく、専門的な工房と考えられる。碧玉の出土状態から、工房の外で大きめに石を加工し、工房内で穴開けなどの仕上げを行っていたと考えられる。安来道路建設に伴い調査された。

## 広がる玉作遺跡

…玉作遺跡が語る、古墳時代の出雲…

一九九二年六月、安来市で、ある遺跡の発掘調査が行われようとしていました。遺跡の名前は大原遺跡。発掘担当の調査員は、この調査にある期待を抱いていました。実はこの大原遺跡は、従来から、玉を作るときに出る石クズが発見されることで有名な遺跡だったのです。

出雲は全国最大級の玉作地帯として有名ですが、そのほとんどは八束郡玉湯町とその隣の松江市忌部町に集中しています。玉湯町と松江市の境界にある花仙山が、玉の原石である碧玉（青めのう）やめのうの大産地だからです。

ところが今から約二〇年前、「玉作遺跡は、花仙山周辺に集中するもの」という当時の常識がゆらぎ始めました。この大原遺跡から、碧玉のかけらがみつかったからです。しかし発掘調査ではなく、畑で拾われたものであったため、玉が作られた時代など実態は不明でした。その後、安来市内で花仙山産の碧玉がいくつか見つかりましたが、くわしいことはわからないままでした。その大原遺跡に、ついに調査のメスが入られることになったのです。

調査が始まると、おびただしい碧玉の石クズが出る住居が見つかりました。やはり玉作工房があったのです。しかも一辺が八メートルもある、工房と言ってもまるで工場のような建物です。この周辺からも、全部で一〇〇キロ以上はあるおびただしい量の碧玉が出ました。これだけの量の石を、どうやって玉湯から安来まで運んできたのでしょうか……。

この大原遺跡の調査をきっかけに、松江市福富工遺跡、安来市平川遺跡、東出雲町四ツ廻り遺跡、原の前遺跡、勝負遺跡など、各地で続々と玉作遺跡が発掘され始めました。これらのうち花仙山に近い福富工遺跡を除くと、古墳時代中期の玉作遺跡が目立ちます。とっちら古墳時